2025年4月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回5月のてがたんは5月10日(土)で、テーマは「もっと知りたいムクドリ」です。ぜひご参加ください。市民スタッフのみなさま、次回の下見は5月4日(日)です。

4月の観察コースと内容

●コース:鳥の博物館→手賀沼遊歩道→けやき広場→市民農園

●観察日時と天気:2025年4月12日(土)10:00~12:00 晴れ

●参加人数:13名(大人11名、子ども2名)

●市民スタッフ:6名(石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、伴野茂樹、湯瀬一栄)

●博物館友の会:1名(古澤紀元)

●鳥博職員:1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科:カルガモ、コガモ/キジ科:キジ/ハト科:キジバト/クイナ科:クイナ、オオバン/カイツブリ科:カイツブリ/カモメ科:ユリカモメ/ウ科:カワウ/サギ科:アオサギ、ダイサギ、コサギ/ミサゴ科:ミサゴ/タカ科:トビ/ハヤブサ科:チョウゲンボウ/カワセミ科:カワセミ/モズ科:モズ/カラス科:ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科:シジュウカラ/ヒヨドリ科:ヒヨドリ/ツバメ科:ツバメ/ウグイス科:ウグイス/エナガ科:エナガ/メジロ科:メジロ/ムクドリ科:ムクドリ/ツグミ科:ツグミ/スズメ科:スズメ/セキレイ科:ハクセキレイ/アトリ科:カワラヒワ/ホオジロ科:ホオジロ、アオジ、オオジュリン家禽や外来種:ドバト(ハト科)

【昆虫】カマキリ目:ハラビロカマキリ/バッタ目:ヤブキリ、キンヒバリ、ツチイナゴ、ヒシバッタ/カメムシ目:ヨコヅナサシガメ、クサギカメムシ/ハチ目:セイヨウミツバチ、キムネクマバチ/チョウ目:ルリシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キタテハ、ナミアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、コウチュウ目:ナナホシテントウ、コガタルリハムシ

【爬虫類】カナヘビ 【クモ類】ゴミグモ、ハナグモ

【草の花】ヒガンバナ科:ハナニラ、オオマツユキソウ/イグサ科:スズメノヤリ/キンポウゲ科:タガラシ、ヒメリュウキンカ/マメ科:スズメノエンドウ、ヤハズエンドウ/バラ科:オヘビイチゴ、ヘビイチゴ/カタバミ科:カタバミ/スミレ科:スミレ/アブラナ科:イヌガラシ、タネツケバナ、ナズナ、カラシナ/タデ科:スイバ/ナデシコ科:オランダミミナグサ、コハコベ、ノミノツヅリ/アカネ科:ヤエムグラ/ムラサキ科:キュウリグサ/オオバコ科:オオイヌノフグリ/シソ科:ヒメオドリコソウ、ホトケノザ/サギゴケ科:トキワハゼ、サギゴケ/キク科:オオジシバリ、ヤブタビラコ、オニノゲシ、セイヨウタンポポ、チチコグサモドキ、ノゲシ、ノボロギク、ハルジオン

【木の花】アサ科:エノキ/二レ科:ケヤキ/モクレン科:コブシ/カツラ科:カツラ/アケビ科:アケビ/ツバキ科:ヤブツバキ/バラ科:ユキヤナギ、サクラ/マメ科:ハナズオウ/ガマズミ科:ニワトコ



今回のてがたんのテーマは「みどり、いろい ろ」でした。日本語で表現する「みどり」にも 様々な名前や色表現があり、みどり色のチャート 表を用いながら新芽や若葉と比べて観察をしまし た。また、冬鳥のツグミが見られたほか、夏鳥の ツバメも観察でき、季節の移り変わりを感じる観 察会でした。



今月の案内人 石原直子さん



動前木色のムクゲの若芽。



❷キンモクセイの若芽は、緑色ではな くやや赤みがかった色をしている。



❸菱形のヒシバッタ。



→緑色のサクラ(品種名ギョイコウ)。





⑤おそらく今月が見納めの冬鳥ツグミ。



64月に咲き始めたハルジオン。



⑦タンポポの綿毛。



❸緑色の腹部をもつハナグモ。

今月の鳥 ウグイス

ウグイスは「鶯色」や「鶯茶色」といった色の名前にもなっている、小さな野 鳥です。春になると「ホーホケキョ」と美しいさえずりで鳴くことは皆さんご存 知でしょう。このさえずりのほかにも、ウグイスにはいくつかの鳴き方がありま す。「ジャッジャッ」といった地鳴きは、オス・メスともに日常のコミュニケー ションで使われます。さらに、「ピルルルルル・・・・ケッキョケッキョ……」とい う独特な鳴き方は「谷渡り鳴き」と呼ばれ、これまでは人や捕食者への警戒音と 考えられていました。しかし、昨年発表された国立科学博物館の研究者による最 新の研究によると、これもメスへのアピールの一種と考えられるそうです。身近 な鳥でも、まだまだ分かっていないことがたくさんあります。ぜひ、ウグイスの 鳴き声にも注目してみてください。



ウグイス